

チャペル週報

No.19

2025.10.13～10.17

秋季宗教運動特集号

草は枯れ、花はしぼむ。

しかし、私たちの神の言葉はとこしえに立つ。

イザヤ書 40 章 8 節



大学院2号館、本部棟（西宮山崎キャンパス）

関西学院宗教センター



チャペル・スケジュール

時 間:西宮上ヶ原キャンパス・西宮聖和キャンパス 10:30～11:00 神戸三田キャンパス 10:40～11:10
場 所:各学部チャペル(ランバスチャペルアワーは西宮上ヶ原キャンパスランバス記念礼拝堂)

10月13日(月)	神 人 建	潮田 真舟(神学研究科 D1 年) 桜井 智恵子(人間福祉学部教授) インドネシア交流セミナー参加報告
10月14日(火)	神 文 社 法 経 商 国 理・工・生環 総 教	吉澤 和海(神学研究科 D1 年) Andreas Rusterholz(宗教主事) インドネシア交流セミナー参加報告 献血実行委員会 啓明学院創立記念日(10/18)を迎えて 舟木 譲(宗教主事) 木原 桂二(宗教主事) 献血実行委員会 竹内 富久恵(日本キリスト教団神戸愛生伝道所／北須磨教会牧師) ACUCA Student Camp 参加報告 献血実行委員会
10月15日(水)	神 社 法 商 人 国 理・工・生環 教	島村 恭則(社会学部長) 平和を造るために⑤ 藤田 忠弘(学院本部事務局長) Christian M. Hermansen(宣教師、法学部教授) 献血実行委員会 嶺重 淑(宗教主事) 平林 孝裕(宗教主事) 国際社会貢献活動報告 田代 麻里江(クライストコミュニティ武庫之荘教会 チャプレン)

10月16日(木) 大学合同チャペル –自然と共に生きる–

西宮上ヶ原キャンパス(10:20～11:10) 会場:中央講堂

「炭鉱のカナリア」 和田 喜彦(同志社大学 キリスト教文化センター所長 経済学部教授)

神戸三田キャンパス(10:30～11:20) 会場:VI号館101教室

「感謝から応答へ」 木村 護郎クリストフ(上智大学外国語学部長・教授 グローバルスタディーズ研究科教授)

西宮聖和キャンパス(10:20～11:10) 会場:メアリー・イザベラ・ランバスチャペル

「他者である自然、自然の一員である人間」 大澤 香(神戸女学院大学文学部准教授・チャプレン)

10月17日(金) 大学合同チャペル –自然と共に生きる–

西宮上ヶ原キャンパス(10:20～11:10) 会場:中央講堂

「感謝から応答へ」 木村 護郎クリストフ(上智大学外国語学部長・教授 グローバルスタディーズ研究科教授)

神戸三田キャンパス(10:30～11:20) 会場:VI号館101教室

「他者である自然、自然の一員である人間」 大澤 香(神戸女学院大学文学部准教授・チャプレン)

西宮聖和キャンパス(10:20～11:10) 会場:メアリー・イザベラ・ランバスチャペル

「被造物との平和」 Christian M. Hermansen(宣教師、法学部教授)

◇ランバス早天祈祷会 毎週金曜日 8:10～8:30 ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)

10月17日(金) 経営戦略研究科のために 山地 範明(経営戦略研究科長)

上ヶ原キャンパスのランバス記念礼拝堂、Zoom いずれでのご参加もお待ちしております。



オンライン (Zoom)

炭鉱のカナリア

和田 喜彦

かつて炭鉱では、カナリアが籠に入れられて持ち込まれていました。カナリアは人間よりも一酸化炭素などの有毒ガスに敏感で、わずかな濃度上昇でも体調に異変が現れます。そのため、カナリアの様子を観察することで、危険をいち早く察知することができたのです。

公害の歴史を振り返ると、大きな被害が広がる前には必ず前兆がありました。明治期以降の足尾銅山鉱毒事件では、汚染水が渡良瀬川に流れ込み、まず魚が犠牲となりました。その後、魚や農作物を通じて人間にも被害が及びました。

戦後の 1950 年代、熊本県で起こった水俣病事件では、最初に異常を示したのは猫でした。狂ったように走り回り、海に飛び込んで死んだりする姿が「猫踊り病」と呼ばれました。食品公害の典型であるカネミ油症事件でも同様に、ポリ塩化ビフェニル（PCB）やダイオキシン類に汚染された餌を食べた養鶏場の鶏が大量死しました。これらは人間への「警告」でしたが、その声を軽視した結果、多くの命が失われ、生存者は後遺症に苦しみました。

被害が人間に及ぶと、まず犠牲となったのは零細漁民や小作農など、社会的に弱い立場の人々でした。彼らは健康を害して働けなくなり、経済的困窮や差別、精神的苦痛を耐え忍びました。

聖書はこう語ります。

「弱い人の叫びに耳を閉ざす者は 自分が呼び求めても答えを得ることができない。」（箴言 21:13）

自然界の小さな異変や弱者の犠牲を容認し、自身への「警告」でもあることを否認し続けるのであれば、やがては無関係だと思っていた人々にも被害が及ぶ——これが歴史の教訓です。

今日、私たちが直面している環境問題も多様で深刻です。気候危機、生物多様性の喪失、有機フッ素化合物（PFAS）による水質汚染、リニア新幹線工事による地下水枯渇、ネオニコチノイド系農薬によるミツバチの減少、行き場のない高レベル放射性物質などです。ミツバチについては果物や野菜の受粉に欠かせません。もし異変を放置すれば、やがて食料危機として人間に跳ね返ってくるでしょう。

自然界や弱き者が発する「警告」を重く受け止め、自分事として即対応しなければならぬ——これは神様からのメッセージです。小さき者の叫びに真剣に耳を傾けなければならぬ新しい時代が到来しているのだと思います。

（同志社大学 キリスト教文化センター所長 経済学部教授）

感謝から応答へ

木村 護郎 クリストフ

人間は「自然」とどのような関係にあるのでしょうか。昔から人間は事実上、自らを自然の一部としてとらえてきました。しかし、近代以降、自然を人間と切り離して対象化することで、科学技術が発達しました。その副作用として大きくなってきたのが環境問題です。自然を人間が好きなように扱ってよい物とみなす自然観への疑問から、再び自然と人間の一体化をめざす動きがみられます。日本では、それはたとえば、神道にみられるようなアニミズムの再評価にもつながっています。しかし、自然の「対象化」と自然との「一体化」は、二者択一なのでしょうか。私たち人間は、自然の循環の一環であるとともに、その循環を作りかえる、あるいは破壊さえする力を与えられた、生物のなかで特異な存在でもあります。創世記をはじめとする聖書のさまざまな個所は、地球における人間のこのような二面性を見据えることが、環境問題への対処にとって不可欠であることを示唆します。

では、このことは私たちの日々の生活にとって何を意味するのでしょうか。食事を例にとってみましょう。しばらく前まで動物や植物であったものが食物として私の一部になります。そのつながりをたどっていくと、雨をもたらす雲、植物を育む土も自分とつながっていることが実感されます。空も自分、大地も自分なのです。その循環のなかである種の物質がたまたま自分の体の一部になっており、また自然に還っていくのです。自然の一部である自分を再発見することは、与えられている恵への感謝の気持ちを引き起こすでしょう。と同時に、自分がその一部である循環を意識することは、自分が得る食べ物が果たしてうまく循環につながっているかを問い直すことにもつながります。食べ物は環境を破壊して自分のところに来ていないだろうか、また、自分のところに来た後、また循環につながっているだろうか。こうして感謝への応答の気持ちは、食べ物を選ぶ責任、食べる責任として現れます。

おかしくなってしまった循環を取り戻して持続可能な生き方への転換をめざすために一人一人ができることは限られていますが、小さな一歩からでも、新たな命のリレーをはじめることができます。

(上智大学外国語学部長・教授 グローバルスタディーズ研究科教授)

他者である自然、自然の一員である人間

大澤 香

2019～2022 年度に参加させていただいた関西学院大学キリスト教と文化研究センター共同研究「エコロジカル聖書解釈」では、人間中心ではなく、「新しい視点＝環境の視点」で聖書を読む、貴重な機会をいただきました。年々厳しくなる夏の暑さ、世界の各地で続く戦禍に、世界と地球の未来への不安を感じます。地球規模の課題を前に自分にできることは微々たるものと思いきや、
「共に生きる」とはどういうことなのか、どのようにしてそれが可能になるのか、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。

そのことを考える際に、「他者である自然」「自然の一員である人間」という二つの視点を手がかりとしたいと思います。「共に生きる」ことには、それぞれの存在が「対等」であることが前提として求められます。「他者」という存在が、自分の力で支配やコントロールすることのできない存在、「私」の外にあり、かつ「私」に重要な出会いや働きかけを与えてくれる存在であることを思う時、人間が常にその恩恵を受けてきた「自然」や「環境」もまた、人間にとっての「他者」であると言えます。古代の日本の文化の中にも、隣接する文化の中にも、人間が自然の恩恵によって生かされていることへの認識が確認できます。

同時に、聖書の神話的物語もその事実を指摘するように、やがて土に還る人間は、この自然界、生態系の一員であることも紛れもない事実です。目に見えないところで多様な存在が繊細に複雑につながるこの生態系が健全に続いていくためには、自然界・人間世界どちらにおいても、多様性が認められ守られていくことが不可欠です。

「他者である自然」「自然の一員である人間」という二つの視点から、他者への「敬意」と「連帯」の大切さを確認したいと思います。そのことを通して、「喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣きなさい」（ローマの信徒への手紙 12 章 15 節）との聖書の言葉を具体的に実践するためのヒントを、私たち一人一人が見つけることができればと願っています。

（神戸女学院大学文学部准教授・チャプレン）

被造物と平和的に暮らす

Christian M. Hermansen

ガラテヤの信徒への手紙 5:14 においてパウロは、「隣人を自分のように愛せよ」という教えを自らの生活に実践することを勧める。そして、その道を通して私たちは神の国へと至ることができる」と述べる。

アッシジの聖フランチェスコはこれを実践した。彼は貧しい人々と連帯して生き、神のすべての被造物を兄弟姉妹と呼んだ。彼の生涯は、教皇フランシスコを含む多くの人々にとって模範となった。

2015 年、教皇は『ラウダート・シ』を発表した。ご存知のように、2015 年は国連が貧困撲滅と持続可能な地球環境の実現を目指し、17 の SDGs（持続可能な開発目標）を採択した年でもある。

『ラウダート・シ』において教皇は SDGs については触れず、ユダヤ・キリスト教が説く「隣人を自分のように愛せよ」というパラダイムこそが行動の核心であるべきだと論じた。（さらに関心のある方は『ラウダート・シ』を題材にした映画『ザ・レター』をお薦めする。YouTube で視聴可能 <https://www.youtube.com/watch?v=Rps9bs85BII>）。

現代を支配しているパラダイム、経済成長、競争、利便性、自己商品化、自分第一主義といったものは、「隣人を自分のように愛せよ」という教えとは正反対の方向へと私たちを引きずり込む。

その正反対の方向の行き着く先は戦争である。しかし、もし 80 億人の人々が、「私」と同様のニーズを持っていると仮定するならば、限られた資源は、一部の人間にしか手に入らないことを簡単に想像できる。私や私たちが「隣人を自分のように愛せよ」という意志を持たない限り、戦争への道は容易にたどり着いてしまうのだ。

キリスト教的パラダイムに従って行動することはなぜこれほど困難なのか。それは、おそらく神の声はささやきのようなものだからだと言えよう。遠く離れた隣人が求めていること、自然が求めていることは、外部からの様々な情報や自分自身の心配の声を小さくしてこそ、初めて聞こえてくるものだからだ。そのために、沈黙の時を設け、ささやきに耳を傾けることを日課とすることも、ささやき声を聞く一つの方法だ。今週聖和キャンパスに設置されたラビリンス、あるいはここに掲示している指でたどるラビリンス(右記)は、そうした時間を作る助けとなる道具かもしれない。自らの歩みを振り返り、小さな声に耳を傾けてみたい。あなたの体と心と魂に平安が訪れるために。アーメン。



（宣教師、法学部教授）

●院長室から発信！ビデオメッセージ「風に思う」配信のご案内

関西学院はキリスト教主義教育を理念として、Mastery for Service というスクールモットーを持っています。メッセージビデオ「風に思う」では、関西学院の土台である聖書の言葉やキリスト教の思想をもとにした院長室スタッフからのメッセージや、学院で Mastery for Service の精神を体現する学生団体等と院長との対談をお届けします。皆様の心の糧となれば幸いです。

<https://ef.kwansei.ac.jp/about/kazenimou> 「風に思う」関西学院 院長室からのメッセージ (HP)



●タの礼拝のご案内

勉学や仕事終わりなどに、どなたでもご参加いただける礼拝です。パイプオルガンの音に耳を傾け、賛美歌を歌い、聖書の言葉に聞き、日々の忙しさと喧騒の中で、こころ静かに過ごすひと時となれば幸いです。皆様のご参加をお待ちしています。オンライン配信も行います。

日時・場所：10月21日(火) 17:10~18:10 ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原キャンパス)

テーマ：「平和があるように!」

司式：打樋 啓史(宗教総主事) メッセージ：水野 隆一(神学部教授)

主催：関西学院 共催：関西学院宗教活動委員会

問合せ：学校法人関西学院総務部 TEL. 0798-54-6740

視聴用 URL：<https://kwansei-gakuin.zoom.us/j/92211178017> パスコード：742925



●サテライトキャンパスでのチャペルアワー

大阪梅田キャンパスと西宮北口キャンパスでもチャペルアワーを実施しています。

どなたでもご参加いただけるプログラムです。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

大阪梅田キャンパス (アプロースタワー14階 1405教室)

11月20日(木) 17:50~18:10 嶺重 淑(大学宗教主事)

西宮北口キャンパス (阪急西宮ガーデンズゲート館7階 多目的室)

11月14日(金) 10:35~10:55 嶺重 淑(大学宗教主事)

●大学キリスト教週間 宣教師企画 歩く瞑想 ～ラビリンス体験～(Labyrinth walk)

忙しい日々の中で、自分と向き合うひとときを。芝生の上に広がるラビリンスをゆっくりと歩きながら、心を静めてみませんか？(ラビリンスは、祈りと内省のための道として、キリスト教の歴史の中で育まれてきた歩く瞑想のひとつです。一本道をたどるその形は、人生そのものを映し出す鏡のようです。)

場所：西宮聖和キャンパス 図書館前の芝生

設置期間：10月8日(水)~17日(金) 好きな時間にご自由に体験してみてください!

<特別体験イベント>

10月13日(月) 第一部:10:30~11:00 第二部:11:00~11:30

対象者：学生(体験申込 8名まで) 見学自由

奏楽者：早野 潤子先生(パストラルハープ奉仕者)

※雨天の場合はダッドレーメモリアルチャペルで行います。



ラビリンスの歩き方



申込(当日まで)

●第230回ランバス演奏会 リコーダー・アンサンブルコンサート「レアール」

「レアール」は1997年に関西学院大学応援団総部吹奏楽部 OB・OG を中心に結成されました。

ランバス演奏会への出演は23回目を迎えます。バロック音楽を中心に古楽からジャズに至るまで幅広いジャンルの音楽をレパートリーに活動しています。<入場無料・予約不要>

日時：2025年10月23日(木) 17:30~19:00予定

場所：ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原キャンパス)

出演者：Real(レアール)

主催：関西学院宗教センター(tel.0798-54-6018)

●2025 年度 第 1 回教育研究部サロン 「ベーツ先生の日記と信仰」

関西学院の第 4 代院長として、大学昇格、上ヶ原キャンパスへの移転、スクールモットーの提唱など、学院の発展に尽力した C.J.L.ベーツ先生。その功績の陰には、激動の時代に揺れ動く信仰者としての姿がありました。ご遺族から提供された直筆の日記には、第二次世界大戦下で葛藤するベーツ先生の心の軌跡が記されています。本サロンでは、ベーツ宣教師の日記を手がかりに、教育者として、信仰者としてのベーツ先生の内面に迫ります。

お 話 : ベネディクト・ティモシー (宣教師、社会学部准教授)

司 会 : 細見 和志 (総合政策学部教授)

日 時 : 10 月 28 日 (火) 17:10~18:40

場 所 : 本部棟会議室 4 (西宮上ヶ原キャンパス)

主 催 : 関西学院宗教活動委員会

※対象は関西学院教職員・学生 (申込不要)

※対面で実施しますが Zoom 参加も可能です。以下 URL もしくは QR コードからご参加ください。

<https://kwansei-gakuin.zoom.us/j/98261832522?pwd=bl3koauXDpogo4Ey13MzpyUm7T5UU1.1>



●秋の献血週間のお知らせ

以下のとおり、秋の献血週間を実施します。提供していただく血液は、兵庫県赤十字血液センターでの検査を経て医療現場に届けられます。皆様のご協力をお願いします。

日 時 : NUC・・・10 月 16 日 (木)、17 日 (金) 10:30~11:20 / 12:40~17:00

場 所 : NUC・・・吉岡記念館ラウンジ、中央芝生横

主 催 : 宗教総部献血実行委員会

●関西学院会館ベーツチャペル日曜礼拝

授業期間中の第 2・第 4 日曜日 (原則) の 10:00~11:00 に関西学院会館ベーツチャペルでは日曜礼拝を行っています。どなたでも (クリスチャンでなくとも) ご参加できますのでどうぞお越しください。

10 月 26 日 (日) 9:00~10:00

●「関西学院クリスマス at ザ・シンフォニーホール」チケット販売のお知らせ

関西学院最大のクリスマスページェントを大阪のザ・シンフォニーホールで開催いたします。

日 時 : 2025 年 12 月 18 日 (木) 17:30 開場 18:30 開始 21:00 終了予定

場 所 : ザ・シンフォニーホール (大阪市北区大淀南 2-3-3)

内 容 : 第 1 部・・・音楽で綴る降誕物語とクリスマスメッセージ

第 2 部・・・学院の音楽団体によるクリスマスコンサート

参 加 費 : 2,500 円 全席指定席 チケット販売 (9/26 販売開始)

*関西学院大学生協 (tel.0798-53-5150 各キャンパスで販売)

*チケットぴあ P コード 302-777 <https://w.pia.jp/t/kwansei-christmas/>

*ぴあ取り扱いのコンビニエンスストア:セブン・イレブン

*ザ・シンフォニー チケットセンター <https://www.symphonihall.jp/>

(tel.06-6453-2333 ・火曜定休、ザ・シンフォニーホール内)



チケットぴあ



ザ・シンフォニーホール

参加費は運営費を除いた全額を宗教活動委員会を通して関係団体・施設等に献金いたします。

主 催 : 関西学院

共 催 : 関西学院後援会・関西学院同窓会

お問合せ : 関西学院宗教センター (tel.0798-54-6018)